

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190400012		
法人名	社会福祉法人 清水福祉会		
事業所名	グループホーム けいこう園		
所在地	佐賀県多久市東多久町大字別府5222番2		
自己評価作成日	平成 26年 6月 30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成26年 7月 17日	外部評価確定日	平成26年8月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホーム けいこう園は 法人の共通理念「笑顔・和・思いやりを持って地域に貢献する」を基本として、利用者一人ひとりの人格と尊厳を尊重する介護を行うよう頑張っています。 また、同一敷地内にある養護老人ホームとも自由に行き来ができ、ボランティア訪問などにも参加し、顔なじみの方との楽しい時間を過ごして交流を深めています。 ホーム内は四季の移り変わりが分かるよう、各季節の制作物や、写真などを掲示し、家庭的な雰囲気の中で 利用者と一緒に楽しく日常生活を送れるように心がけています。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>「笑顔・和・思いやりをもって社会に貢献する」という法人の理念を基に、入居者一人一人の人格と尊厳を尊重し、入居者がそれぞれに役割と個性を持って日常生活を送れるよう支援している。職員の様子から、入居者それぞれの個性を大切に、個々に応じた対応を心がけている姿勢が伺える。ホーム内では、職員と入居者の会話がはずみ、生き生きとした大きな明るい声が響いており活気がある。防災意識が高く、屋内消火栓を設置して初期消火に重点的に力をいれている。消防避難訓練には消防設備業者も参加し、消火機器類の点検や使用についての指導も行われている。避難訓練には、入居者も一緒に参加し、火点毎に設定された避難経路に沿って訓練している。経営母体が高齢者福祉に知識が深く、母体法人内には、病院・特養・老健・居宅系や通所系の介護サービス事業所など数多くの高齢者対応事業所がある。介護サービスを提供する上での確かなアドバイスを受ける事が出来、入居者・家族の安心につながっている。高速道路インターから近く、JR東多久駅前という交通の便が良い地に建つグループホームであり、敷地内に隣接して養護老人ホームが建っている。養護老人ホームとは、散歩や日向ぼっこ・ボランティア訪問時の参加などで良い協力関係ができており、入居者の行動の幅の広がりにつながっている。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本とし、ホームの介護理念を施設内やスタッフルームに掲示している。職員はその理念を共有し実践に取り組んでいる。	社会に貢献するという法人の共通理念を基に、入居者それぞれの個性を大切に、個々に応じた対応を心がけると言う事業所理念を作り上げている。理念は、リビングや玄関など目に付きやすい壁に掲げられ、理念の確認と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同一敷地内の養護老人ホームとの合同夏祭りには地域の方にも声かけ一緒に楽しんでもらっている。また保育園児の訪問時などには養護老人ホームにお邪魔して一緒に交流を深めている。戸外活動時には通りすがりの方との挨拶などもできている。	自治会に加入していないが、地域とのつながりは区長を通して行われている。隣接老人ホームとの合同夏祭りには、多くの地域住民の参加があり、盛大に開催されている。地元の秋祭りには、地元浮立のホーム訪問もあり、入居者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通して、地域の方々にも認知症の理解を深めてもらっている。施設見学に来られる方に対しては、相談のつたり支援の方法などについて伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、地区の区長・分館長・民生委員・地域包括支援センター長(職員)・利用者とその家族等に参加していただき、園の取り組み、実態の報告を行っている。会議での意見やアドバイスはサービス向上のために活かすよう努めている。	運営推進会議は、2か月に1度開催されている。会議は、ホームを知ってもらう事に重点を置いた情報提供が主な内容であるが、より活発な意見交換ができる会議となる様に、ホーム内見学も検討中である。委員からは、他の施設の情報や市の取り組み等、現状に即した説明もなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として、市の地域包括支援センター長に参加してもらい、意見・協力をいただいている。また、市の地域包括ケア会議にも参加し連携を図っている。	市町村担当者との連絡は、地域包括支援センターを通して行っているが、分からない事があれば何でも聞ける関係はできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ一同拘束しないケアの理解に努め、基本原則として対応している。日中は玄関の施錠は行っていない。ただし、入居者の身体・精神状況により安全確保のために拘束せざるを得ない状況が発生した場合には家族様に説明・同意を得た上で対応し長期化しないよう話し合いを持っている。	契約時に入居者と家族に事業所の方針を説明し、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。管理者は、職員に「入居者に対してダメと言う言葉を使用してはいけない」と伝えており、職員は、精神的・言葉による苦痛のない支援を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一同高齢者虐待防止法の理解に努め、毎日の生活の中で注意を払い対応するよう努めている。ミーティングでの話し合いも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、スタッフの更なるスキルアップを図るために外部研修への積極的な参加を促し、ミーティングなどの場で報告し、理解を深め共有するよう努めている。必要な状況が発生した場合には速やかな対応が出来るよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて十分に説明をし納得いただける状況は確保されている。年度途中で改定などあれば口頭・書面において説明をし同意を得ようとしている。ただし主体は家族様となっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているものの中々利用されるケースはないため、日頃から入居者やご家族様とのコミュニケーションを密にし、様々な意見・要望を表して頂くよう伝えている。必要と認められたものについてはその都度検討し運営に反映させるよう努力している。	職員は家族や入居者と話す事を心がけ、意見や要望の把握に努めている。重要事項説明書に苦情受付機関を明記し、家族に説明している。玄関には、意見箱も置かれている。出された意見や要望は、速やかに検討し、野菜作りに取り組むなど運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2週間に一度のペースで開催するスタッフミーティングや、日常の色々な場面でもスタッフの意見や提案を聞く機会を設け、反映させるよう努めている。	管理者と職員は、普段からよく話し、何でも言える関係ができています。管理者は、職員の意見を聞く様に心がけ、職員は、気付いた事は管理者に伝えるように努めている。職員から出された意見や提案は、運営に活かせるように検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが応分の職責を自覚し、目標をもって仕事に取り組むように、給与・賃金などの勤務条件、施設整備等の職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験・実績などを踏まえ、本人が主体性と課題をもって研修に参加するよう積極的に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の同事業所との交流を図るほかグループホームの研修会などに積極的に参加し情報交換などに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階でできるだけ本人と会話する機会を作りながら、安心して話ができる関係を築き、自分の思いを伝えられるような状況を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階でご家族様と話しをする機会を多く持ち、まずは安心して話ができる環境作りに努め、不安に思っている事や要望などを傾聴し状況に応じた返答やアドバイスなどを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人・ご家族様の要望を聞き、生活状況・家庭状況などを照らし合わせたくえで何が必要なサービスか見極めるよう努めている。また他のサービス利用が必要と思われる場合は十分話し合いをした上で支援するようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、本人ができることを見出し、レク活動参加や、共同作業に於いて共に暮らす者同士としての関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時や電話の際などに近況をお伝えしたり、要望を確認するなど情報交換を行い、本人とご家族様の絆を大切にしながら、ともに本人を支えていく関係を築くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた馴染みの方や知人などへ再来の言葉かけを行いこれまでの関係が途切れないよう支援を行っている。また、場所についても記憶に留まるよう会話の中に取り込んでいくよう努めている。	知人の面会時には、お茶の接待をし、ゆっくり過ごせる雰囲気づくりをしている。昔訪れた場所や見慣れた自然に触れてもらえる様、ドライブや買い物・食事外出など入居者から要望があればできる限り対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者のほとんどが日中ホールで過されることが多く、生活リハやレクリエーションなど共同の場を通して入居者同士が関わりあい、支えあえるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	等施設を退居されてからも、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・ご家族様からの相談などに対応するよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント作成時より一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向の把握に努め、また日々の関わりの中で見受けられる何気ない言葉や表情からその方の思いを把握するよう努めている。困難な場合はご家族様と相談の上 本人本位で検討している。	入居者それぞれの個性を大切に、個々に応じた支援を行える様、入居時に聞き取りを行っている。職員は、普段から入居者と話す事が心がけており、日々のケアの中から意向を汲み取る様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント作成時、本人・ご家族・紹介先の担当者から情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らし方などを基に、入居後一人ひとりの一日の過ごし方は様々であるが、本人が過ごしやすいような支援に努めている。また、心身の状態や本人の有する能力の把握に努め、本人の希望に沿うよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向を踏まえ介護計画を作成している。面会時に説明を行い要望を取り入れたり、状態が変わった時などは見直しをするなどして現状に即した介護計画となるよう進めている。介護者は日々の観察をもとにミーティングなどで検討している。	入居者本人や家族から要望を聞き、本人・家族の希望などを汲み取った具体的な介護計画が立てられている。ケース記録は、個別援助計画に対してチェック・確認が毎日分かりやすく記入されている。モニタリングが毎月実施され、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は個々の記録に記入し、職員間での情報共有はできている。2週に1回のミーティングや月末に評価・気づきなどをあげ、見直しを検討するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の状況の変化やその時々ニーズに対して柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者一人ひとりが必要としている地域資源について把握し、個々にあった地域資源を活用できる支援を行うよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望を重視し、適切な医療が受けられる状況は確保している。施設との提携医療機関からも週1回の訪問看護定期訪問を受けている。状況により家族様への提案や調整もできている。	入居者や家族の意向を大切に、事業所の協力医への受診変更の他、入居前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。通院は家族の送迎を基本としているが、緊急時などは、職員で対応している。家族送迎時や職員対応時、どちらも受診結果は適切に説明や報告がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを同一敷地内にある養護老人ホームの看護職員や訪問看護師に伝えて支持をもらい、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談などの対応は図られている。入退院時に限らず病院関係者との連絡や調整ができる関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についてご家族様とともに話し合う機会を持つようになっている。重度化した場合おける対応に係る指針を掲げ、最終的にはご家族様の希望に添えるよう取り組んでいる。	重度化や終末期に関しては、契約時に本人及び家族に説明が行われ、同意を得ている。入院や重度化するなど、入居者の状態に合わせて家族と話し合う体制ができており、入居者・家族と事業所は方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医療機関や訪問看護ステーションは24時間の連絡に対応する体制は取れていて、緊急の場合などにも指示を仰ぐ事ができている。応急手当については「嘔吐物処理」に関してのみ実施ができている。数カ月には一度は手順の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含む年2回の避難訓練の実施においては消防署や養護老人ホームと連携を取り避難の方法について身につけるよう訓練を行っているが、地域との協力体制については再確認し早急に協力体制を築くようにする必要があると考えている。	年2回、消防署指導の消防避難訓練を隣接法人内事業所合同で実施している。初期消火に力をいれており、ホーム内にはスプリンクラーとともに屋内消火栓が設置されている。避難訓練には、消防機器の設備業者や入居者も参加している。災害に備えて食料や水を3日分備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、日常生活の中での関わりや、職員間での話し合いで個別対応ができるよう取り組んでいる。	個人情報利用目的を明確にし、契約時に入居者・家族に説明して同意を得ている。職員は、接遇研修に参加し、入居者本人の人格を尊重した言葉かけや、口調に注意した支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者が自らの思いや希望を表現できる環境作りを心がけ支援している。自己決定についても自分で決定できる雰囲気を作るよう配慮し取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れは決めているが、朝の挨拶や会話の中で本人の思いや、どのように過ごしたいのかを聞き、本人のペースに合わせて希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で行える身だしなみはやってもらい、その人らしいおしゃれができるような支援を行っている。理美容に関しては美容師の資格を持った職員が本人の希望を聞きながら定期的にかットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には入居者の希望を取り入れるなどして提供している。苦手な献立の際には別メニューで対応している。調理や配膳など入居者に参加してもらい食事意欲や関心を高めている。入居者と職員が協力して炊事全般を行っている。	日々の雑談の中で入居者の好みを把握し、献立に活かしている。入居者は、包丁を使用して、調理から味付けや配膳までほとんどの作業に参加しており、職員は見守りながら支援している。毎日の食事は、入居者だけの食事であるが、月1回の外食や年中行事の食事は、職員も一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量についてはチェックを行っている。一人ひとりの心身の状態などにより食事の形態などにも配慮している。お茶などは何時でも飲む事ができるように準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを日課としている。個々の能力に応じて見守り、一部介助、全介助の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄についてはチェック表を作成・利用する事により個々の排泄パターンや能力に応じた支援を行っている。可能な限りトイレでの排泄を促し、自立に向けた支援を行っている。	入居者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。「パッドにするのが当たり前じゃない」という考えから、日中はなるべく布パンツで過ごせるように支援している。現在、半数の入居者が自立である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排泄状況を把握し個々の状態に応じた支援を行っている。水分量や運動量にも配慮し、必要に応じて看護師のアドバイスも受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は隔日・午後に入浴設定しているが、要望やタイミングにより変更可能な状況にしている。また、入浴を楽しめるよう入浴剤を使用したり入浴中に歌を歌ったり、昔話をするなど楽しめる工夫をしている。	入浴は、隔日で個別入浴が基本であるが、毎日でも、希望があればできる限り支援するように心がけている。入浴を嫌がられる場合は、無理強いせず、声掛けや対応を変えたり、シャワーや足浴などで対処している。入浴しない時も下着は毎日交換し、清潔に保つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切にしながら、その時々状況に応じて休息したり夜間の安眠が確保できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師・薬剤師の指導のもと、薬情で用法・用量など確認している。疑問や服薬に関して不安に思う事はその都度薬剤師・看護師に確認しアドバイスをもらうようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴をできるだけ把握し、本人の持てる能力に応じた活動への参加を促している。また、入居者の意向を聞きながら、楽しみを見つけたり気分転換が図れるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事計画を作成し、実践している。天気の良い日は散歩や外気浴などで気分転換を図っている。また、入居者に行きたいところを尋ねドライブなどに反映させている。	入居者の要望でドライブや近隣散歩などの外出支援を行っている。天気の良い日は隣接の老人ホームのピロティで日向ぼっこをしたり、敷地内を散歩している。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設での預かり金はしていないが個々の能力に応じてお小遣い程度は持っている方もおられる。外出の際に買いたいものを購入される事もあり、確認などの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が来ることは少ないが返事を書きたいと言われる時には支援をしている。また、電話をかける事を希望されたり、かかってきた電話に出ていただくなどの支援はしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段はホールで過されることが多く四季の草花や窓から見える風景を眺めながらスタッフや入居者同士での会話など、それぞれが居心地良く過せるよう心がけている。また、壁には入居者と一緒に作った四季折々の制作物や外出した際の写真などを貼っている。	ホーム内は明るくゆったりしており、入居者は自由にのんびりとくつろいでいる。24時間換気がなされており、消臭剤や芳香剤を活用して室内に不快な臭いが発生しない様に気を付けている。花や手芸作品で季節感を取り入れている。毎年夏の暑さ対策に緑のカーテンを育てている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの周りだけでなく、ホールや玄関置いているソファーを利用し過されている事もある。入居者同士で会話したり思い思いの場所で過していただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に本人・ご家族様へ安心した居室づくりを伝え、自宅で使い慣れたもの、好みの飾り物などを置いたりして個々の落ち着いた生活空間となるような室内環境を工夫している。	居室は広く、トイレと洗面台付きである。契約時には、自宅で使い慣れた馴染みの品の持ち込みを勧めている。仏壇を持参している入居者もあり、観葉植物や写真・手芸品・カレンダーなどが飾られ、居心地よく過ごせる居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で本人ができる事はできるだけ本人に任せ、できない部分のみ援助するようになっている。トイレなど共同で使用する場所がわかるように環境作りにも心がけている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。  (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。  (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。  (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。  (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。  (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない